

令和6年度 第3回 福岡市環境審議会

議事要旨

- 1 日時 令和7年1月16日(木) 16:00~17:10
- 2 場所 TKP ガーデンシティ PREMIUM 天神スカイホール メインホールB
- 3 出席者(五十音順、敬称略)

氏名	役職等
阿部 真之助	市議会議員
石橋 勇志	九州大学大学院 農学研究院 教授
猪野 猛	福岡商工会議所 理事・事務局長
大石 修二	市議会議員
大原 弥寿男	市議会議員
大森 一馬	市議会議員
押川 千恵	独立行政法人国立病院機構福岡病院 耳鼻咽喉科 科長
菊水 之恵	日本野鳥の会 福岡支部 幹事
砂入 成章	九州経済産業局 資源エネルギー環境部 次長
勢一 智子	西南学院大学 法学部 教授
平 由以子	特定非営利活動法人 循環生活研究所 理事
高木 勝利	市議会議員
田中 綾子	福岡大学 工学部 教授
中山 裕文	九州大学大学院 工学研究院 教授
野村 久子	九州大学大学院 農学研究院 准教授
萩島 理	九州大学 副学長・総合理工学研究院 教授
松山 倫也	九州大学大学院 農学研究院 特任教授
馬奈木 俊介	九州大学大学院 工学研究院 教授
森 あやこ	市議会議員
山内 勝也	九州大学大学院 芸術工学研究院 准教授
山田 ゆみこ	市議会議員

4 会議次第

- (1) 開会
- (2) 脱炭素社会推進部会の報告
- (3) 福岡市環境基本計画（第四次）素案策定作業部会の進捗状況について
（次期計画の骨子案）
- (4) 閉会

5 議事録

(1) 脱炭素社会推進部会の報告

【委員】

資料 1-1 を基に概要報告

(2) 福岡市環境基本計画（第四次）素案策定作業部会の進捗状況について （次期計画の骨子案）

【委員】

資料 2-1 を基に概要報告

【事務局】

資料 2-2～2-6 について説明

【委員】

骨子案の各施策のビジョンの「ひと・まち・しごと」のリード文について、目標を示すものであるならば、現在形で記載されていることに少し違和感がある。また、施策の中に記載されており、初めて見た人が分かりづらいと思うため、素案としてまとめる際には「ひと・まち・しごと」のリード文が目標の姿であることが分かるように表記した方がよい。

【事務局】

「ひと・まち・しごと」のリード文は、行政だけでなく、市民・企業の実践の結果の将来の目指す状態を示したものになる。また、今後、骨子案に具体的な施策を肉付けし、素案を作成していくので、その中で分かりやすく表現していきたい。

【委員】

全体的に分かりやすく、市がリードしていく姿勢がよく伝わったが、施策のビジョンの中に自然資本の項目が入っていないと思う。今後、生物多様性が重要視されると思うので、ビジョンに加えた方がよいと思う。

【事務局】

自然資本については、資料 2-4 「みんなでめざすまちの姿」の考え方の 2 つ目に「自然資本を基盤として、環境・経済・社会の好循環を創出していくことが重要」と記載しており、計画の中でこのような概念を全体の基盤として位置づけている。

【会長】

委員が指摘された自然資本という考え方は、このところ色々な部分で重要視されている概念であり、「ひと・しごと・まち」の全体の基盤になっているようなものだと思う。今後、計画を具体化していく中で、緑の基本計画など他の分野と連携を図り、自然資本の考え方や重要性が伝わるよう検討を進めてほしい。

【委員】

「ひと・しごと・まち」というビジョンに基づいて指標が充てられていると思うが、基本施策2のビジョンの「ひと」は「ものを大切に作る意識が醸成され、実行されています」として、市民の行動を表しているのに対し、指標が「市民や企業、行政などによるごみの削減やリサイクルの取組みが進んでいると思う市民の割合」となっており、行政や企業などが行う取組みの指標になっている。「ひと・しごと・まち」というビジョンがあるのであれば、それに対応する指標を設定した方がよいと思う。

【事務局】

指標については、各基本施策に客観的な指標を1項目設定するとともに、主観的な指標を2項目設定するという構成にしている。主観指標については、市の基本計画と同様に、それぞれ取組みによって市民の意識がどのように変わったかを測るために設定している。主観指標はビジョンの「ひと・しごと・まち」と対応しているものではなく、施策体系の各項に対応しており、ビジョンに向けた取組みの結果として、市民の意識がどのように変わっているかを指標の中で測っていきたいという趣旨で設定している。

【委員】

市民が個人として実行していくことと、企業や行政が進めていくことは異なる。アンケートを実施するときに、自身の行動のことなのか、行政が実施していることなのか、見方が違うため、現在の指標を設定すると、アバウトな現状値と目標値になりかねない。個人的には個人と企業・行政を分けても良いのではないかと思う。

【会長】

指標の内容が、市民自身の行動と行政の施策の評価が混在しているという指摘かと思うので、アンケートのとり方やそれから導き出す目標値を精査する必要があると思う。現在の指標を設定するとしても、目標値の設定や分析の仕方については事務局に少し深掘りをお願いしたい。

【事務局】

主観指標については、いくら行政や企業が取り組んでも市民の方に届いていないと意味

がないという趣旨で、市民の実感による指標を設定している。指標の中身をどういう形で深掘りできるかについては今後検討していきたい。

【委員】

計画の中に「めざすまち」が設定されているが、めざすまちの実現に向けて、市民一人ひとりの行動変容を促していくことが重要であり、計画の中身をしっかりと広報していくことが重要だと思う。また、「みんなでめざすまち」としているが、「みんなで」とすると、自分の責任から少し遠ざかるような気がするので、「一人ひとりがめざす」など、市民一人ひとりが自分事になるような表現があるとよいと思う。

【事務局】

広報については、重要施策の中にも位置づけていることから重要と考えており、今後も引き続き取り組んでいきたいと考えている。また、「みんなでめざすまちの姿」としているが、一人ひとりがしっかりと取り組んでいくことは重要なことであるため、そのような考え方も分かるように、素案の中で丁寧に説明していきたい。

【委員】

全体的に分かりやすくなっていると思うが、重点施策2の「環境経営を実践するまちづくり」の指標について、2つの指標が重複しているように感じる。2番目の「企業が環境に配慮した商品やサービスを提供していると思う市民の割合」については、企業が提供しているかどうかではなく、市場で環境に配慮した商品やサービスを選択できる状況になっているかや、商品を購入する際の情報を取得できるかという視点が重要である。そのため、企業に対する評価ではなく、市民が商品を購入するときに環境に配慮した商品の選択ができるかということを知りたい。

【事務局】

アンケートの設問については、再度内容を検討したい。

【委員】

現行計画の指標には緑被面積が設定されているが、今回は設定されていない。カーボンニュートラルに向けては、吸収策が重要となってくると思うが、再エネの取組みが中心になっており、自然資本を活用した脱炭素に向けた取組みが記載されていない。また、例えば、循環分野の「ものを大切にする意識が醸成・実行されている」という中などにも、地産地消のような視点がないため、もう少し自然を意識した内容が盛り込まれても良いのではないかと考える。

【事務局】

地産地消は基本施策3に盛り込んでいるが、意見を踏まえて、ビジョンの文言は改めて検討したい。

【委員】

資料2-3の5ページ、基本施策4のビジョンの「まち」の2つ目の項目については内容が具体的になりすぎているため、例えば、「環境騒音について、関係機関と連携した総合的な対策を講じ、良好な生活環境が保全されています」というように変更してはどうか。自動車騒音を成果指標に設定している実情もあるので記載されていると思うが、ビジョンが限定的に読めてしまうのは避けた方がよいと思う。

同様に、「しごと」の3つ目の項目も限定的な文章となっているため、「屋外広告物の表示など、事業活動にあたっては、周囲の生活環境への配慮ができています」などにした方がよいと思うので、文章の検討をお願いしたい。

【事務局】

意見を踏まえ検討させていただく。

【委員】

グリーンインフラの活用について、ビジョンに盛り込むとともに、説明文等で市民へ意味を伝えることが必要と思うがいかがか。

【事務局】

基本施策3のビジョンの「まち」に、自然が有する調整機能を活かすという部分で記載しており、素案の中でグリーンインフラについては説明していく。「めざすまちの姿」の中で、自然資本が全ての基盤となっており、それぞれの施策の基礎になっていることを分かりやすく示すとともに、具体的な部分は素案で説明していきたいと考えている。

【会長】

本日、みなさまよりいただいた意見を踏まえた骨子案への反映等については、私に一任していただき、事務局と調整の上、骨子案として確定したいと考えているがよろしいか。

(異議なし)

(3) 閉会

以上